



「多久から発信！SDGs 14」

「平和は当たり前じゃないこと」

(東原岸舎中学校9年 大坪 優菜)

今年度、中央校の9年生は、修学旅行で鹿児島  
の知覧特攻平和会館に行きました。そこで改めて  
戦争の怖さを痛感しました。特攻隊の人たちの思  
いや特別攻撃の意味を講師の先生に教えていただ  
き、本当に恐ろしく体が震えました。同時に、今  
は平和な日本ですが、未来にも起こりうることだ  
と思いました。

現在、世界では様々な戦争が起こっています。  
なぜ戦争は起こるのでしょか。私は解決の仕方  
が戦争一択の人が多からだと思えます。そこで  
私たちにできることは、解決するために何ができ  
るかを考えることです。中央校では、すべての学  
年・学級で学び合いの時間がたくさん設けられて  
います。総合的な学習や道徳の時間を使って、争  
いを解決する方法を学校全体で話し合い、考え、  
それを全国に発信していくことで、きっと世界の  
どこかに私たちの思いが届くはずですよ。

私は、平和な国代表の日本が、世界のモデルに  
なるべきだと思います。そうすることで、日本の  
考えにあこがれを持ち、マネしたいと思ってくれ  
る国があるはずだと考えているからです。日本が  
平和であり続けるためにも、コ  
ミュニケーションをたくさんと  
り、世界中のみんなが、幸せと  
幸福を分かち合えることを望ん  
でいます。

16 平和と公正を  
すべての人に



連  
載

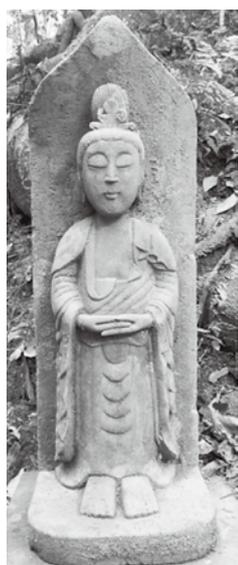
野の仏ギャラリー 44

観世音菩薩立像

多久町

光背、立像、隅丸方形台が二石から造られ、光  
背には制作時の加工の跡が多数あります。蔵手文  
と円文で飾った宝冠を頭上に載せ、髪を高く結い上  
げています。手は、左手の上に右手を載せ禅定印  
としています。袈裟正面の衣文は形式化され、足  
元は広く見せています。観世音菩薩は民衆を広く  
救済するため変化し、六観音や三十三観音などの  
分身を生み出しました。

銘「施主陣内忠太奉寄進并當村中」安政四巳四月



○菩薩は、本来悟りを  
開く前の修行中の者  
を称します。

○禅定印は、瞑想に入っ  
ている状態を示す印  
です。

多久市郷土資料館長 藤井伸幸

市民文芸

◆萌えいでし水仙の芽にいくつもの  
蕾かくれて春を待ちおり  
川浪 信子

◆刺持ちて己護るか柵の  
真白な花を照らす寒月  
浦野 嘉恵

◆晩秋の枯草踏みしめウオーキング  
音のひびきに歩数が伸びる  
梶原恵美子

◆君といた日々ではなくて本当は  
君がくれた日々だったんだよね  
野崎 隆幸

◆消去したとたん悔いが噴出す  
友の声々あふれいたるに  
尾形 節子

◆したたかな石の割れ目に冬すみれ  
武富 律子

◆冬紅葉昔を語る夫のあて  
中嶋 清子

◆甲問の途絶えてよりの冬の月  
富樫 明美

◆古里の遠くなりゆく年の暮  
本村 則子

◆酒蔵の窓に束の間冬茜  
おおやはな

◆エンジンが始動するよう  
初日の出  
西山 残月

◆方言で会話のはずむローカル線  
大谷 和

◆節電と物価高です冬の陣  
古賀 弘子

◆ゲンコツの味を知らない親も子も  
井上 東子

◆被災者は共に資源を分かち合い  
中尾 和弘